

ふるさと納税によるクラウドファンディング、 北海道東川町での効果事例



昭和女子大学准教授 保田 隆明 (ほうだ たかあき)

はじめに

ふるさと納税は、自分の支払う所得税・個人住民税の一部を自らが希望する都道府県や市区町村で納税できる制度である。自治体へ寄付を行い、その大半(2,000円を超える部分)を税金の控除や還付という形で実質的なキャッシュバックとして受け取る。この税金メリットを享受できるのは、住民税の2割(平成26年までは1割)が上限である。そして、総務省が2013年に実施した調査によると、約半数の都道府県・市区町村はふるさと納税をしてきた人に対してお礼として地元の特産品等の送付をしている。多くの自治体では、1万円以上の寄付者に対して、寄付金額の半額相当の特産品を送るとするのが一般的である。納税者側もこの特産品を目当てとしてふるさと納税を行う場合が少なからず存在し、ふるさと納税で受け取ることのできる特産品の豪華さやお得度を紹介するサイトなども存在する。この場合、ふるさと納税は単なる寄付行為ではなく、実質的に一般消費者が2,000円の負担で各地の特産品を大幅なディスカウントで購入しているのと同じ経済メカニズムになる。このようにふるさと納税は、クラウドファンディングで言うところの寄付型と購入型のハイブリッド的な位置づけとなるため、ふるさと納

税は自治体によるクラウドファンディングであると言えよう。

今回はこのふるさと納税を街づくりに生かしつつ、域外との交流者人口の増加に効果を上げている北海道東川町の効果事例を紹介する。

北海道東川町の株主制度の概要

1 北海道東川町概況

北海道東川町は人口8,000人強であり、鉄道、国道、上水道の3つの道のない町である。人口約35万人を抱える北海道第2の都市である旭川市のJR旭川駅から車で30分程度、また旭川空港からも車で15分程度の場所に位置している。写真の町として知られており、写真甲子園開催は20回を数え、全国の高校の写真部の学生が応募してくる。その他、複写式の婚姻届を作成し、町外からも多くの新婚夫婦がわざわざ東川町に婚姻届を提出しにやってくるなど、交流人口の増加を地域活性化の一つの柱として据えている。結果として、定住人口も過去10年間で約5%増加している。この東川町で株主制度という名称のもとでふるさと納税制度が開始されたのは2008年7月である。

2 株主制度の概要

東川町ではふるさと納税をした人を「株主」と呼ぶ。申込はウェブ（東川町、Yahoo!のふるさと納税サイト）、またはFAXで可能であり、払込は振込（郵貯、JA）、クレジットカード（2011年12月開始）、窓口現金払いとなっている。東川町は植林事業など6つの「投資」事業を用意しており、株主はその中から自分の投資したい事業を選択する。それら投資事業はどれも東川町が自らのアピールポイントとしている、写真の町、大雪山国立公園の存在、上水道のない水のきれいな町という特性を生かした事業となっており、資金使途が明確かつ具体的であると同時に、どの事業も納税者に直接、あるいは間接的に還元をすることが意識されている。

先の総務省の調査でも8割の自治体がふるさと納税において納税者が寄付金の使い道を選択できると報告されているが、実際に納税者に提供されている選択肢としては医療や福祉の充実、子育て支援など、比較的大きなくくりで示されることが多く、具体的に納税者が事前に使途をイメージすることは難しい。また、医療や福祉、子育て支援の充実によって恩恵を受けるのは各自治体の住民のみであり、域外からの納税者には還元されず、資金調達をする側の自治体にしてみると、自らの財源拡充のためのふるさと納税という色が強い。また、多くの市区町村では、資金提供者が指定できる資金使途の選択肢に「その他町長が必要と認める事業」、「特に指定しない」、「その他」などが含まれており、これはまさに財源確保に他ならない。

しかし、東川町の場合は町へのヒアリングによると、「その他」のような自治体側にとっては使い勝手のいい選択肢は、意図的に含めていない。投資事業は使途を具体的にイメージできるもの、また、納税者に直接あるいは間接で還元されるも

ののみを選択肢に含めている。特産品を送るというのは納税者への還元の一つの形ではあるが、それは単なる形を変えたキャッシュバックである。しかし、東川町の言う還元は、納税の使い道そのものが納税者に恩恵的に還元されるという意味である。これは、東川町側が納税者との交流を作り出すことをふるさと納税の一つの側面として重視していることからくるものであり、一つ一つの投資プロジェクトにストーリーを持たせようとしている。例えば、同町のふるさと納税の投資事業の一つである写真の町整備事業であれば、同町は毎年全国の高校生向けに写真甲子園を開催しており、未来の写真家育成に大いに貢献している。多くの写真愛好家たちがこの事業を選択してふるさと納税を実施していることは想像に難くない。クロスカントリーコースの整備事業も同様に、オリンピック選手やその関連者たちがふるさと納税を実施しているとのことである。植林による森づくり事業の場合は、東川町には上水道がなく、それはそれだけ同町の水がきれいなことの裏返しであるが、その環境を維持しようという共感から同事業へふるさと納税を実施する人が多いとのことである。



(写真ではやや分かりづらいが、「株主の森」の看板の後ろには背丈の低い苗木がたくさん植えられている)

また、株主はお金を出すだけではなく東川町を訪問し町の人と一緒に植樹を行うことができる。そしてその場所には「株主の森」という看板が立てかけられる。自らの支払った税金の見える化が株主に与える心理的満足度は高いと想像される。このように同町のふるさと納税の各事業にはストーリー性が存在する。

クラウドファンディングの場合も、各プロジェクトの紹介サイトでは、そのプロジェクトを行うきっかけや動機が詳しく紹介されており、単なる資金調達手段ではなく、応援団形成をも目的としているケースが多い。ふるさと納税の中でも東川町のアプローチはクラウドファンディングにおける応援団形成の側面を持ち合わせていると思われる。その点、東川町のふるさと納税はより他の自治体に比べるとクラウドファンディングに近い。

東川町の株主の投資金額（寄付金額）と享受できる特典とを整理すると表1のようになる。

表1 東川町の株主制度における投資金額と特典

	年間投資金額				
	1口	2~9口	10~29口	30~49口	50口以上
寄付金控除の有無	なし	あり	あり	あり	あり
特典①	あり	あり	あり	あり	あり
特典②	なし	なし	希望者のみ	希望者のみ	希望者のみ
特典③	なし	なし	2,500円相当	5,000円相当	7,500円相当
特典④	なし	なし	あり	あり	あり

注：著者作成。1口は1,000円。各特典内容は以下の通り。
 特典①：町のコテージの宿泊料（15～25千円）半額。特典②：初年度5,000円相当東川町土産。特典③：翌年度株主優待品。相当金額は著者見積もり。特典④：町営宿泊施設無料（年間6泊まで）。

1口1,000円からこのふるさと納税のもと株主になることができるが、10口1万円以上を寄付した株主には、初年度に東川町土産が送られてきて（希望者のみ）、翌年度には株主優待制度のもと東

川町の特産品が全員に送付される。東川町土産も株主優待制度での特産品も、中身は株主側で選ぶことはできないが、お米、水、トマトジュース、味噌の他、時期によってアスパラガス、ピーマン、とうもろこし、にんじん、きくらげなどから構成され、時期に応じた旬なものが送られてくる。

他の自治体のふるさと納税でのお礼の品は、納税者が選ぶことができることが一般的である。ふるさと納税のポータルサイトである「ふるさとチョイス」によると、同サイトでの検索キーワードで多い単語は「牛肉」や「米」などであり、特定のモノを当ててとしてふるさと納税を実施する個人が多いとのことである。そんな中、東川町のようにお礼の品を選べない（何が送られてくるかわからない）と、特定のモノを目的とした層を掴むことは難しくなる。東川町ではその点を認識しつつ、敢えて町の一番旬なものを送ることで、町を知ってもらおうとしている。ふるさと納税で資金を提供する個人も、そのような東川町の趣旨はある程度汲み取っていると想像され、単なるモノによる結びつき以上の関係を双方ともに構築しようとしていると言えよう。

なお、初年度に受け取ることができる5,000円相当の東川町土産を株主が受け取らない場合は、投資した1万円は満額が植林など、株主が選択する事業に充てられる。東川町土産を受け取る場合は、投資金額のうち5,000円は農業支援に充てられ、残り（1万円投資の場合であれば5,000円）が株主の選択する事業に充てられるという構図になっている。

その他、株主にはいくつかの優待制度が設けられている。東川町役場に隣接する「ふるさと交流センター」という場所での無料での宿泊、キトウシ森林公園という大自然あふれる公園内のコテージでの半額宿泊などがある。また、株主証（カー



キトウシ森林公園という公園内にあるロッジに半額で宿泊可能



ロッジ内部



株主用無料宿泊ルーム

ドと地元のクラフト工房が作る木製の楯)と特別町民認定書が送られてくる。その他、株主限定の株主ファームが存在し、毎年多くの申し込みがある。「ふるさと交流センター」の無料宿泊利用は、平成26年度で延べ約300泊、約100件の利用があったということである。1件あたり平均3泊利用しているということで、ふるさと納税をした人が実際に町を訪問し、滞在をしている姿を見ること

ができる。交流人口の増加にまさにふるさと納税が寄与している事例と言える。実際には、3泊全てを東川町で過ごすのではなく、そこを起点として北海道旅行を楽しむ株主が多いとのことであるが、観光地ではない東川町を起点とする旅行者がふるさと納税で登場していること自体、その効果のほどが伺える。

なお、ふるさと納税をしてくれた人に対する東川町によるアンケートによると、本州在住者の8割程度が、今後東川町を訪問したいと考えており、お金の提供だけでなくリアルな交流を求める人たちの存在は、交流施策が株主発掘および育成につながる可能性を示唆する。

3 投資金額の分析

初回投資金額を地域別や性別などで見たものが表2である。北海道在住の方が他の地域より投資金額が大きい。北海道在住の方が東川町に対してより応援したいという気持ち強いかもしれない。性別では、男性の方が女性よりも投資金額は高く、支払い手段別ではYahooによるクレジットカード払いの方がほかの手段(現金や振込)よりも投資金額は低くなっている。東川町土産の投資金額への影響を見てみると、サンプルを東川町土産を受け取る権利のある10口以上の株主に限定すると、東川町土産を受け取らないと選択したの方が、受け取る人よりも投資金額は高い。東川町土産を受け取らない場合は、その分自らの選択する事業に使われるお金が増えることになるため、モノ(土産)目的よりも、町の発展に対して思い入れの強いの方が寄付金額が大きいことを示唆する。これらはすべてt検定において1%水準で有意差が存在する。なお、表での表記は省略するが、これら傾向はリピート案件に関しても同様の結果である。

表2 株主の初回投資金額のカテゴリー別平均値

	投資金額	標準偏差	件数
北海道	15,643	19,082	876
それ以外地域 (1%水準有意差)	12,883	11,539	1,132
性別	投資金額	標準偏差	件数
女性	11,659	12,269	511
男性	14,916	16,191	1497
(1%有意水準差)			
支払方法別	投資金額	標準偏差	件数
現金	13,237	19,340	583
振込(郵貯、JA)	15,387	15,159	973
カード(yahoo)	12,410	7,944	451
(カードとそれ以外の差:1%有意水準)			
	投資金額	標準偏差	件数
東川土産アリ	14,807	13,153	1,511
東川土産ナシ	20,943	24,900	263
(1%有意水準差)			

注：2013年9月時点の東川町のデータをもとに著者作成。差の検定はt検定による。金額の単位は円。東川土産アリ、ナシの分析は東川土産を受け取ることができる10口以上の株主に限定。

4 結び

地方自治体や企業にとっては、東京をはじめとした都市圏の一般消費者から直接資金調達ができることの意義は大きい。特に地方自治体の場合は財政状況が逼迫している地域が少ない中では、負債性資金以外の資金調達限の確保は極めて重要である。特に、クラウドファンディングの場合は、資金提供者をそのまま自社サービスの利用者や訪問客にすることが可能である。東川町の場合も資金提供者を地域の特産品の消費者にした、訪問をしてもらって交流人口を増加したいという意図が介在しており、同様の取り組みと効果が他の地域の場合も期待できる。

今回の分析結果からは以下のことが示唆される。まず、お金を支払う人たちには、入手できるモノや経済的メリットを追求する人と、必ずしもそうではなく別の目的を有する二つの層が大きく

存在すること。特に、別の目的を有する人たちがより多い金額を拠出する可能性が見てとれた。ゆえに、案件のマーケティング過程では経済的メリットやモノの素晴らしさを強調するのみならず、案件の意義や理念を訴求することも非常に重要であると思われる。また、多面的に自社、自治体に関して消費者とのコンタクトポイントを作り、申込手段や支払手段を複数設けておくことも重要である。東川町が地理的なハンディを乗り越えて首都圏から多くの資金調達に成功している点は、今後他の地方自治体及び地方に存在するベンチャー企業によるクラウドファンディングを活用した資金調達に参考になるはずである。

(本稿は保田(2014)をもとに加筆、改編したものである。)

【参考文献】

- 総務省自治税務局(2013)「ふるさと納税に関する調査結果」。
- 保田隆明(2014)「地方自治体のふるさと納税を通じたクラウドファンディングの成功要因」、商学討究、64(4)、257-272頁。
- 山本純子(2014)『入門クラウドファンディング』、日本実業出版社。

【謝辞】

本研究は、科研費24530368および平成25年度小樽商科大学重点領域推進研究より助成を受けた。また、町長をはじめとする東川町の職員の方々には、多大なるご協力を頂いた。